

J S Q C 規格の開発・制定に関する提案書（案）

規格の名称	新製品・新サービス開発管理の指針
規格の種類	○ 1. 規格 (JSQC-Std) 2. テクニカルレポート (JSQC-TR)
規格の適用範囲	総合的品質管理 (TQM) の一貫として、組織において行うことが推奨される新製品・新サービス開発管理の方法
規格の利用者	TQMを実践する組織、および組織のTQMを評価・診断する人
制定のねらい	<p>新製品・新サービス開発管理とは、「新製品・サービスに関わる活動を効果的かつ効率的に行うためのプロセス及び／又はシステムを定め、維持向上、改善及び／又は革新して、次の新製品・サービスの開発に活かす一連の活動」であり、プロセス保証とともに、品質保証（顧客・社会のニーズを満たすことを確実にし、確認し、実証するために、組織が行う体系的活動）の中核をなす活動である。潜在ニーズの把握、ボトルネック技術の明確化とブレイクスルー、デザインレビューと失敗の防止、初期流動管理、市場情報の監視、新製品開発プロセスの見直しなど、日本の品質管理の特徴をなす多くの要素を含んでいる。</p> <p>しかし、ISO 9001の普及とともに、保証=Assurance（どのようなニーズを満たすのかを顧客・社会との約束として明文化し、それが守られていることを証拠で示し、信頼感・安心感を与える活動）と捉えられることが多くなり、新製品開発管理の内容について十分な理解のないまま、品質保証にとりくんでいる組織が少なくない。</p> <p>JSQCとして、新製品・新サービス開発管理に関する基本的な考え方、取り組むべき主要な活動、その実践において役立つ手法を一つのパッケージにまとめ、わかりやすく解説した規格を発行することは、社会における品質保証の理解をより確実なものとし、製品・サービスの品質の向上に貢献する上で大切と考えられる。</p>
制定によって期待される効果	<p>(1) 新製品・新サービス開発管理に関する概念および方法がわかりやすいものとなり、TQMの普及が容易になる。</p> <p>(2) 新製品・新サービス開発管理があまり実践されてこなかった分野（サービス業など）へ普及を促進できる。</p>
制定によって影響を受けられる組織・人	<p>(1) TQMを実践している組織</p> <p>(2) ISO 9001に基づくQMSや認証制度を運用・活用している組織</p> <p>(3) 安全・安心の確保が重要となる社会インフラを支える組織</p>
制定までのおおよそのスケジュール	<p>(1) 2017年12月末 作業原案の作成</p> <p>(2) 2018年1月～2018年3月 審議委員会による審議とパブリックコメントの募集</p> <p>(3) 2018年4月 規格の発行</p>
原案作成に当たって参考となる資料	<p>(1) 標準委員会編（2006）：「TQMの基本」、日科技連出版社</p> <p>(2) 日本品質管理学会（2010）：「品質保証ガイドブック」、日科技連出版社</p>
提案委員会・研究会・部会名	日本品質管理学会 標準委員会 (新製品・新サービス開発管理の指針原案作成WGを設ける)

<規格の構成案> 全40ページ以内

序文

1. 適用範囲
2. 引用規格
3. 用語と定義
4. 新製品開発管理の基本
 4. 1 TQMにおける品質保証の役割
 4. 2 品質保証における新製品開発管理の役割
 4. 3 顧客価値創造の基本的な考え方
 4. 4 新製品開発プロセスと品質保証体系
5. 新製品開発管理の進め方
 5. 1 潜在ニーズの把握と新製品・サービスの企画
 5. 2 開発管理計画の策定
 5. 3 ボトルネック技術の特定とブレークスルーの実現
 5. 4 設計における標準化
 5. 5 デザインレビューと既存技術適用における失敗の防止
 5. 6 ばらつきに対して頑健な設計
 5. 7 調達先・パートナーとの連携
 5. 8 初期流動管理
 5. 9 市場・客先における品質情報の監視
 5. 10 顧客満足度調査と新製品開発プロセスの見直し
6. 新製品開発管理のためのツール
 6. 1 品質機能展開と商品企画七つ道具
 6. 2 PDPCと新QC七つ道具
 6. 3 統計的方法と品質工学
 6. 4 T型マトリックとCSポートフォリオ
 6. 5 . . .

参考文献